



「ピアニスト」



「月と太陽 -Eclipse-」

ACT FESTIVAL 2017

3つの不思議な世界がひらく、魔法の扉がやってくる!



「ひつじ」

家族で楽しめる世界最先端のパフォーマンスを招いてきたタクト・フェスティバル。今回は初参加の国もあり、幻の技もありで、ひと味違うオモシロさだ!

一台のピアノにまつわるスペクタクル

フィンランドからは、シルコ・アエレオのトム・モンクトンが創作した作品を紹介しよう。

タイトルは『ピアニスト』。一台のグランドピアノとシャンデリアが設置されている舞台上に、みるからに神経質そうなピアニストが登場する。彼は演奏に向かおうとするのだが、ピアノにたどり着くまでが一苦労だ。楽譜からして思い通りにならないし、予想の斜め上に行くようなとんでもないことが次々に起きる。果たして無事演奏することはできるのか……!?

この作品の演出を手がけているモンクトンはニュージーランドでサーカスを学び、その後ニューヨークでも高い評価を得た。現在拠点にしているフィンランドは国立のサーカス学校もある、北のサーカス大国なのである。出演者のコートニー・スティーヴンスは身体を使ったコミカルなフィジカル・シアターを得意とし、30カ国以上で公演を重ねているベテランである。

ハラハラと爆笑が、ピアノの上で交差する。ピアニストとは、全身でピアノと格闘する者なのだ!

本国でも実現不可能!? 仮面舞踊と影絵の融合

もうひとつ、神話が息づく国インドネシアのバリ島から、特別なパフォーマンスがやってくる。

バリ島を代表する伝統芸能として「トベン(仮面舞踊)」と「ワヤン・クリ(影絵芝居)」が有名だ。両者は全く違うスタイルなので、同じ人間が両方を演じることが本国でもまずないという。しかし今回は、両方を修めた数少ないアーティスト、カデック・チャブンを、タクト・フェスのために、仮面舞踊と影

絵芝居を融合させた新作『月と太陽 -Eclipse-』を創作してくれるのである。「伝説的なダラン(人形遣い)」といわれた親のもとで幼い頃から修行を積んだカデックは、昨年東京芸術劇場でも公演された、国際共同制作『三代目、りちやあど』にも出演し、強い印象を与えた。いまや自身が随一のダラン(人形遣い)であると同時に、仮面舞踊トベンの踊り手としても活躍している、異彩を放つ存在だ。

本来、仮面舞踊のトベンは「ババット(王国時代の系譜物語)」を、影絵芝居のワヤンは『マハーバーラタ』などインドの長編叙事詩を扱うなど、区別がある。しかし今作でカデックは『マハーバーラタ』の日食と月食の起源にまつわる神話的な舞台を創出した。さらに仮面舞踊では物語の進行を務める道化役が、影絵には様々な動物が登場して、ユーモラスで見た目も楽しいシーンが盛りだくさんである。

そして本国から招くトップクラスのアーティストと日本人演奏家によって生演奏されるガムランも見所のひとつだ。鉄琴のような構造の独特な楽器グンデル・ワヤンは、演奏する姿が繊細で複雑なため、まるでダンスを見ているよう。しかも普通の演奏でも高度な技術が要求されるのに、本作では4人の奏者がそれぞれ2台の楽器を演奏する。仮面舞踊と影絵芝居で使う曲は音階からして違うため(ペログ音階とスレンドロ音階)、それを難なく弾きこなす超絶技巧の演奏もまた、見応え十分のパフォーマンスなのである。

そして!カナダからはまたも「彼ら」がやってくる!劇団コープスの『ひつじ』である。笑わない、愛想がない、したくになったら糞もする。しかし不思議なキモ可愛さ満載の羊たちに、大人も子どももグッと心を掴まれてしまう。

タクト・フェスティバルは、これらのプログラムをハシゴして見ることも可能。ゴールデンウィークは、一日ゆっくり家族で東京芸術劇場で過ごし、楽しく胸躍る世界への扉を開けてほしい。

文:乗越たかお(作家・ヤサクレ舞踊評論家)

フィンランドのソロパフォーマンス 「ピアニスト」 シアターイースト	バリ島の仮面舞踊と影絵芝居 「月と太陽 -Eclipse-」 シアターウエスト	詳細はP11へ
料金:【全席自由】大人2,000円/子ども(高校生以上)1,000円/未就学児500円 <2演目セット券>大人3,500円/子ども1,500円		
劇団コープス「ひつじ」 ロワー広場【観劇無料】		

	月と太陽	ひつじ	ピアニスト
5月4日(木・祝)	14:30	—	16:30
5月5日(金・祝)	13:00	14:45	16:00
5月6日(土)	13:00	14:45	16:00
5月7日(日)	13:00	14:45	16:00

ミュージカル「パレード」

5月18日(木)~6月4日(日) プレイハウス

詳細はP12へ



秀作社会派ミュージカルを豪華な布陣で日本初演

毎日芸術賞演劇部門・第11回千田是也賞、第21回読売演劇大賞最優秀演出家賞受賞など作品の評価も高い気鋭の演出家・森 新太郎が初めてミュージカルの演出に挑戦。手掛ける『パレード』は20世紀初頭のアメリカ南部で起きた、激しい人種差別意識による冤罪事件を題材とする骨太な人間ドラマだ。脚本のピューリッツァー賞作家A・ウーリー、『ラスト・ファイブ・イヤーズ』など日本でも作品を知られる作詞・作曲J・R・ブラウンのタッグによる今作は、1999年のトニー賞最優秀作曲賞、最優秀脚本賞を受賞。石丸幹二、堀内敬子、岡本健一ら歌と演技の両輪を兼ね備えた実力派キャストが顔をそろえ、大充実の日本初演が期待できる。

作:アルフレッド・ウーリー 作詞・作曲:ジェイソン・ロバート・ブラウン 演出:森 新太郎
出演:石丸幹二/堀内敬子/武田真治/新納慎也/坂元健児/藤木孝/石川禅/岡本健一 ほか
【お問合せ】ホリプロチケットセンター 03-3490-4949

文:尾上そら(ライター)

イクウメ「天の敵」

5月16日(火)~6月4日(日) シアターイースト

詳細はP12へ



大人気劇団の新作は“不老不死”を巡る物語

日常的な設定から、いつの間にか大胆なSFの展開へと物語をスライドさせて高い評価を誇る劇団イクウメ。もうひとつの特徴は、ブラッシュアップや再アレンジで、ひとつの作品をアップデートすること。『天の敵』も、2010年に上演された人気短編集シリーズ『図書館の人生Vol.3』の中のひとつ「人生という、死に至る病に効果あり」を長編化、フルスケール作品にするという。あるルポライターが出会ったのは、独自の食事療法で122歳の長寿を得た30代にしか見えない料理家だった……。

作・演出:前川知大
出演:浜田信也、安井順平、盛隆二、森下創、大窪人衛/小野ゆり子、太田緑ロランス、松澤傑、有川マコト、村岡希美
【お問合せ】イクウメ 03-3715-0940

文:徳永京子

FUKAIPRODUCE羽衣「愛死に」

6月8日(木)~18日(日) シアターイースト

詳細はP13へ



耳と心を驚づかみにする、深く甘い愛の数々

ストーリー性が高くインパクトのある歌詞とキャッチーなメロディが、次々と中毒者を出している羽衣。「妙なミュージカルだから妙〜ジカル」と自称する作品は、毎回、まっすぐな恋や赤裸々な性愛を扱うが、少々下品な描写も、核にある生きることへの真剣さ、人間そのものへの大きな愛、さらに絶妙な愛嬌によって、悪ふざけにならず、逆にこちらの胸を打つ。4年ぶりの芸劇は、7年前の芸劇eyes作品の再演。新キャストの効果もあり、一層深く甘い、愛の物語となるはず。

プロデュース:深井順子 作・演出・音楽:糸井幸之介
出演:深井順子、鯉和鮎美、高橋義和(以上、FUKAIPRODUCE羽衣)、榎原毅、野上絹代(FAIFAI/三月企画) ほか
【お問合せ】FUKAIPRODUCE羽衣 080-7062-7822

文:徳永京子

COMING UP NEXT 2017年 7月-9月

演劇・ダンス ラインナップ

7月21日(金)~30日(日)
「気づかいルーシー」シアターイースト
原作:松尾スズキ 上演台本・演出:ノゾエ征爾
チケット発売:5月中旬

7月下旬
マルタン・ズィメルマン「Hallo」プレイハウス
チケット発売:5月中旬

8月上旬
朗読「東京」シアターウエスト
チケット発売:7月1日予定

8月中旬
芸劇dance
勅使川原三郎 振付・出演 新作
プレイハウス

8月10日(木)~9月3日(日)
日本総合悲劇協会vol.6
「業音」シアターイースト
作・演出・出演:松尾スズキ
チケット発売:6月上旬